

えごま栽培マニュアル 2019



三重県松阪農林事務所
三重県松阪地域農業改良普及センター

目次

I. 栽培暦	・・・1
II. 播種・育苗管理作業	・・・2～4
III. 定植作業	・・・5
IV. 摘芯作業	・・・6～7
V. 管理作業(中耕培土)	・・・8
VI. 収穫作業	・・・8～9
VII. 調整作業	・・・10～13
VIII. 施肥管理	・・・14
IX. 病虫害対策	・・・15～19
X. 栽培に適したほ場	・・・20～24
あとながき・参考	・・・25～26

I. 栽培暦

月	生育状況	主な作業
1月 ～ 3月		土づくり(堆肥投入・耕起)  
5月	発芽	播種 ↑ 育苗  
6月		↓ 定植 ↑  
7月	雑草繁茂 茎葉伸長	雑草管理 中耕培土 摘心(主枝)  
8月	↑ ↓	摘芯(側枝) 追肥・中耕 ↑ ↓  
9月	開花 ↑ ↓ 葉色変化	見回り  
10月	登熟	収穫 脱穀  
11月		乾燥 選別  

Ⅱ．播種・育苗管理作業

ポイント 培土充填前に水を十分に含ませます。

(1) セルトレイ育苗

① 培土充填



詰める前に水を加えてかき混ぜ、培土に空気を入れます。通気性が増し、発芽や発根が良くなります。(培土50Lに対して水1～2L)

※ 乾いた培土をトレイに詰めると、水がいきわたらずに、根浮きや発芽不良の原因となることあります。



各セルに2～3粒ずつ播種します。

② 灌水⇒穴あけ⇒播種⇒覆土

培土内部が十分に湿る程度(底から水が少し出るくらい)に灌水します。鎮圧ローラーで穴をあけ、播種後、種子の約3倍厚さの覆土をします。覆土後に上から押さえて種子と培土を密着させ、軽く灌水します。覆土は必ずバーミキュライトを使用し、薄めに覆土します。

種子は油分が多く水分吸収に時間がかかるため、発芽するまでは培土を乾かさないように注意してください。しかし覆土後の灌水により加湿になりすぎると、種子が流れてしまったり、種子が窒息状態となって発芽しにくくなるので、注意しましょう。

覆土後の灌水では、トレイの底穴から水が出るか出ないかの状態に水分管理してください。発芽まではトレイを積み上げ、最上段は新聞紙をかぶせます

②発芽後の管理

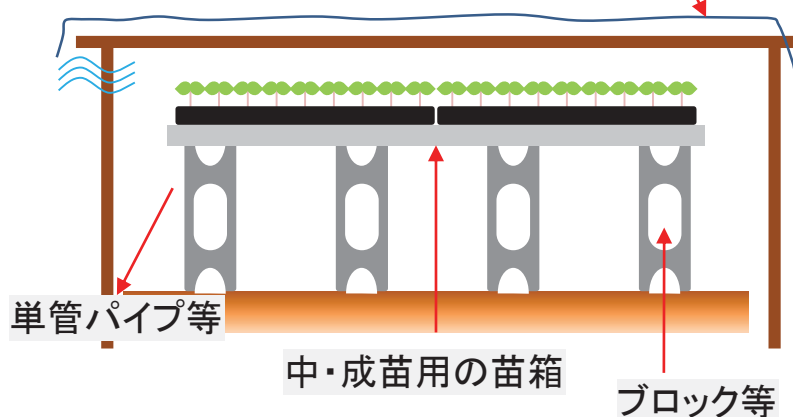
セルトレイの培土の肥料成分も、植物に吸収されたり、灌水により流されたりで、約20日前後で無くなってしまいますので、播種20日目以降は、5～7日間隔で液肥により追肥します。使用する液肥は、窒素成分の少ない有機質のものを使用してください。



・セルトレイ育苗では、育苗期間中に根鉢を形成させる必要があります。根鉢形成のため、根に十分な空気の層が必要で、トレイの底穴が空気の通り道になります。セルトレイは直接地面に置かず、ブロック等で30cm程度の高さに組んだ架台に並べ、根がトレイ外へ出るのを防止します。トレイの底面が地面に直接触れていたり、底に水がたまっていたりすると、根が底部より外に出てしまい、根鉢ができにくくなります。

遮光率30%程度の寒冷紗

風通しを良くしましょう

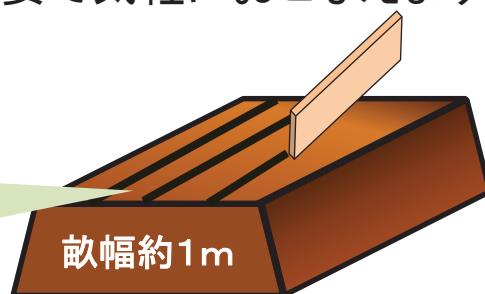


灌水は晴天日の朝のうちに底から水が少し落ちるくらい灌水し、午後には床土の表面が薄く乾く程度にしてください。曇りや雨天時には、苗の徒長や病害の発生を防ぐため、灌水を控えます。

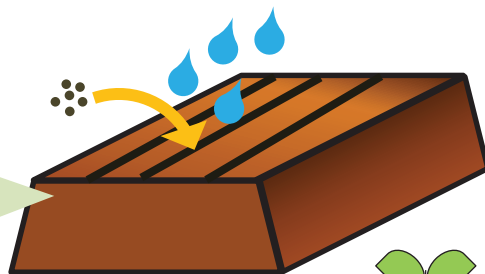
(2) 地床育苗

畑の片隅で苗床を作るため、資材が不要で気軽におこなえます。

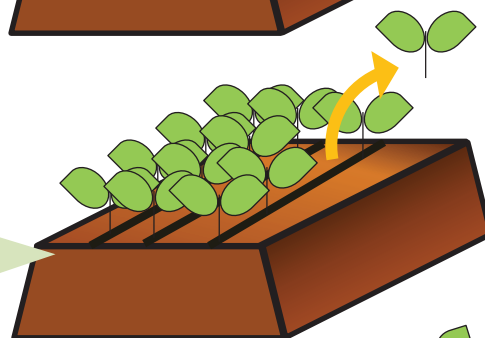
- ・1メートル幅の畝をたて、板を使って10～20cm間隔に、深さ1～2cmの深さの播き溝を作ります。



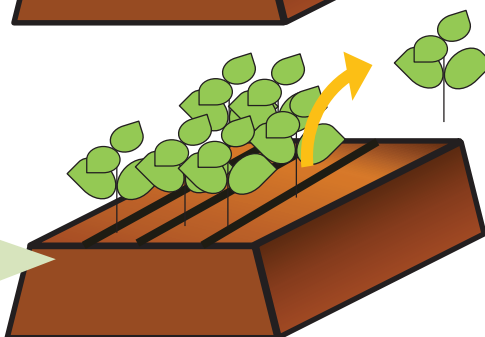
- ・溝に種子を均一に播き、種子が隠れる程度に土をかけ灌水し、発芽までは、被覆資材やもみ殻で被覆します。



- ・発芽後、苗の草丈が2～3cmになったら株を間引きし、2cm前後の株間としてください。



- ・苗が5cmくらいに育ったら、さらに間引きし株間3cmくらいにします。
- ・10～15cmになれば、定植できます。



苗床でできる苗の本数

苗床面積	苗の本数
1.5m ²	約500株
15m ²	約5000株

※条間10cmで株間3cmの場合。



定植に必要な本数を踏まえて
やや余分に苗を作ります。

1aあたり必要な株数の目安

株間 畝間	1aあたり必要な株数の目安	
	30cm	40cm
80cm	約420株	約320株
90cm	約370株	約280株
120cm	約300株	約200株

※1株1本植えの場合。

Ⅲ. 定植作業

ポイント 1株2～3本植えのしっかりした苗を使いましょう

(1) 定植のタイミング

- ・6月中～下旬頃を目途に、本葉が2～3枚展開し、しっかりと根鉢が形成された苗を植えてください。
- ・定植作業前に、苗と植穴に灌水し、十分に湿らせておいてください。
- ・1株2～3本植えにより、増収効果が期待できます。
- ・天気が良く、気温の上昇が予想される場合は、日をずらすか、気温の下がる夕方から定植してください。
(高温日中に定植作業を強行すると、植えた苗が枯れてしまいます)
- ・根鉢を完全に土に埋めますが、伸びすぎた苗の場合は、少し斜めに寝かして植えます。



(2) 定植本数

- ・畦間90～100cm、株間30～35cmの栽植密度とすると、1アールで定植苗が400～450株必要です。
- ・管理機で畝間の中耕や土寄せを行う場合は、畝間を90cm以上とります。



※ 定植前の元肥は、早め(冬期)の堆肥(牛糞)投入で確保します。

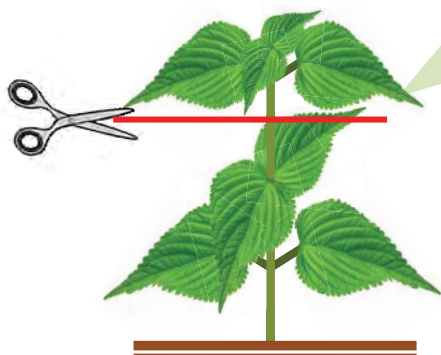
IV. 摘芯作業

ポイント

7月中下旬と8月の2～3回実施し、8月下旬までに摘心を終わめしょう

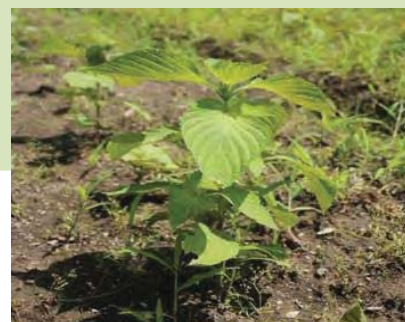
草丈を100cm程度に抑えるように摘心を実施します。
摘心により、側枝が多くなり、花数も増えることで増収が期待できます。

(1) 1回目の摘心

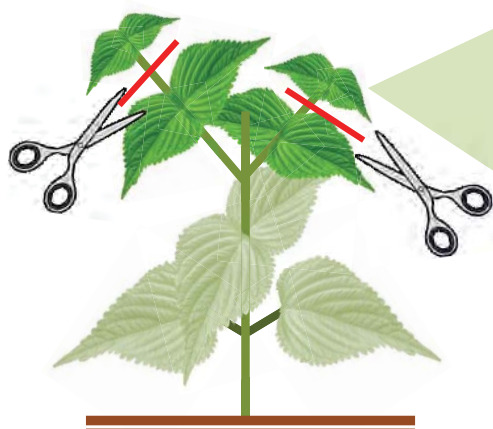


・1回目は草丈が30cm程度で上部の芯葉を摘心します。
(本葉は4枚以上残してください)

※写真くらいの時に摘心します



(2) 2回目の摘心



・2回目は8月中旬迄に側枝の葉2枚を残して摘心します。
(草丈は50～60cm程度)

・時期的に暑くなるので熱中症にならないよう適宜休憩をとりましょう。



(3) 2回目以降の摘心

2回目の摘心以降に、側枝が伸びてくるようであれば、8月下旬までのできるだけ早期(夜温が低下する前)に側枝の葉2枚を残して摘心します。

参考 今年の実証圃の結果①

摘芯回数が増えると、種子量・搾油量とも増加しました。



実験圃場と摘芯直後の株

摘芯回数の違いによる、種子収量と搾油量への影響

	種子収穫量(kg) (各区40株合計)	発生平均側枝数 (各区40株平均)	各区搾油量(ml) (各区40株合計)	摘芯実施日
1回摘心区	1.64	9	500	7/9
2回摘心区	1.74	10	550	7/9, 8/8

- ・今年には高温傾向もあり、2回目の摘心以降も、大幅に草丈が伸びました。
- ・2回摘心区が、側枝の発生も多く種子の収量は多くなっています。搾油量もそれに比例して多くなっています。
- ・2回摘心区では、摘芯後も草丈が伸びたので、あと1回摘芯できたと思います。もう1回の摘心で側枝の発生も花数も違っていただかもしれません。

V. 管理作業(中耕培土)

ポイント

摘心実施後にタイミングよく中耕と土寄せを行いましょう

- ・摘心終了後、草高40～50cmの頃と、草高70～80cmの頃に、管理機や鍬などを使って、中耕(除草)と培土(土寄せ)をおこないます。
- ・雑草が繁茂する前に、タイミングよく中耕と土寄せをおこなえば、除草作業を省略できます。
- ・生育に応じて、土寄せ時に、鶏糞等を施用してください。



VI. 収穫作業

ポイント

収穫は少し早めに行いましょう。
葉や実の色が変わったら、刈り取ってください。

- ・収穫時期は、開花始めから約30日経過後で、花卉が落ちた後の莢が変色を始めた頃です。
- ・少し早いようにみえますが、右写真のように全体が茶色く変色する前に収穫してください
- ・風乾させて、莢全体が変色したくらいに、叩き落としをおこなってください。
- ・株全体が茶色く変色するまで収穫が遅くなると、実の脱粒や鳥の食害が多くなります。
- ・鳥の食害には、ナイロンテグスや鷹のイミテーション、黒ビニールが有効です。





・株元を剪定ばさみや草刈機等で刈り取ります。

・圃場で1週間程度乾燥させます。
 ・鳥害を防ぐために、刈り取った株に防風ネット等の網をかけましょう。
 ・収穫後に雨が予想される場合はハウス等で通風乾燥させます。



・広いシート上に積んで、棒等でたたいて種子を落とします。
 ・たたき落としは1回で十分です。
 ・あまり強くたたきすぎないようにしましょう。



・ある程度種子をたたき落とせたら、ふるいを用いて大きな枝葉や花梗等のごみを取り除きます。ごみを取り除くごとに、ふるいの目を細かくします。



・ゴミ取りが終わったら、とうみをかけるまでの間、日陰の風通しの良い場所で、よく乾かしてください。

